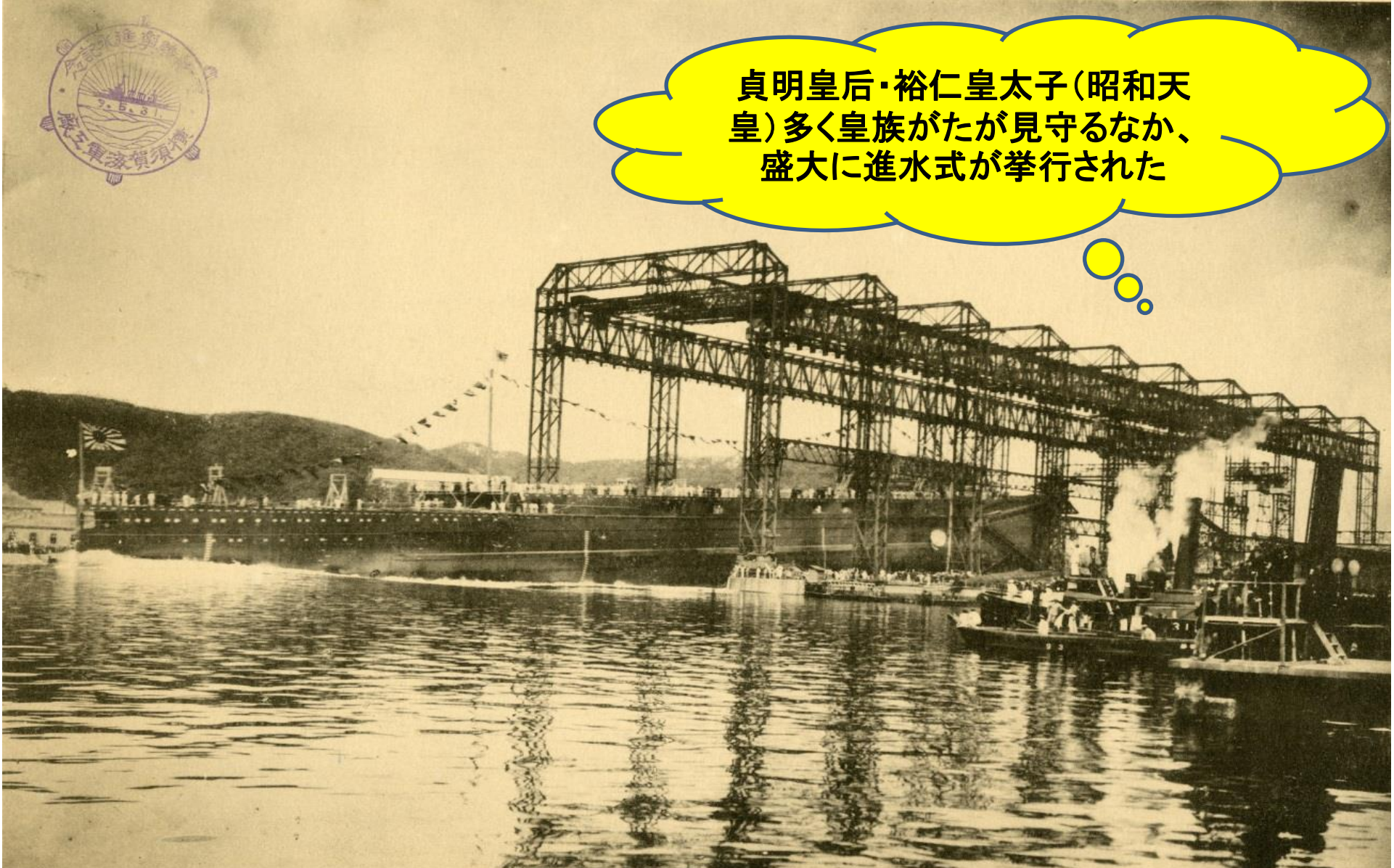


陸奥進水(大正9年(1920)5月31日)



貞明皇后・裕仁皇太子(昭和天皇)多く皇族がたが見守るなか、
盛大に進水式が挙行された



八・八艦隊計画と陸奥

日露戦争後、横須賀海軍工廠では薩摩や河内という世界最大の戦艦を建造し、世界中を驚かせた。

しかし第1次世界大戦(1914~1918)で超弩級戦艦の海戦を見聞きすると、ここまで建造した軍艦が時代遅れであることがわかり、第1次世界大戦後の経済状況の好転もあり、海軍は新たに戦艦8隻、巡洋戦艦8隻で艦年齢も8年以内の艦隊を計画した。

これが八・八艦隊計画と呼ばれたものであった。

この計画の中心が長門型戦艦であり、2隻建造することになった。1番艦の長門は呉で建造され、2番艦にあたる陸奥は、横須賀で当時の日本の造船技術の粋を結集して建造された。

陸奥竣工 大正10年（1921）10月24日

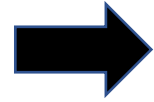
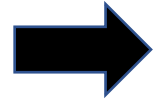


陸奥が竣工したのは、大正10年（1921）10月24日ということになっている。ワシントン軍縮会議で11月11日までに完成していない艦船はすべて廃艦とするという決まりであった。

陸奥はこの会議で未完成との指摘を受けたが、日本側は完成していると主張

結果完成日が1か月早まっている。

戦艦陸奥の歴史 (光と影)



昭和18
年6月8
日爆沈



横須賀製鉄所から陸奥まで

